

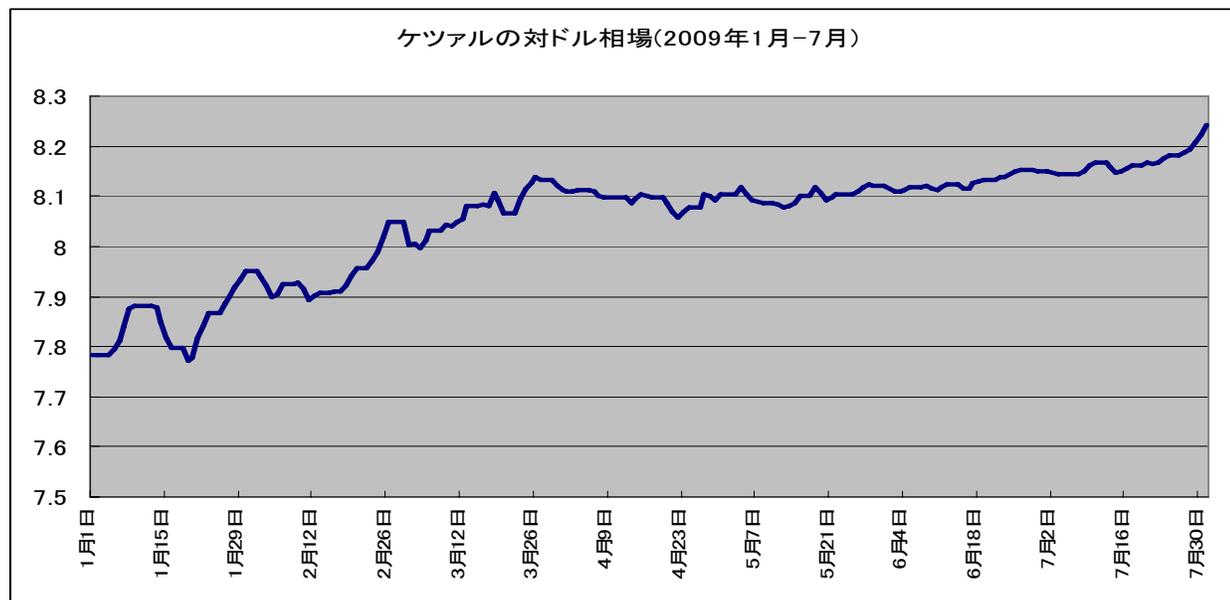
『7月の主な動き』

- 7月、消費者物価指数は年率(2008年7月～2009年7月)で-0.30%となり、過去25年間で初めてのマイナスを記録した。
- 23日、ケツアル対ドル相場ではケツアルの最安値を記録し、以降もケツアル安に歯止めがかからない状況に鑑み、30日、中銀は総額25.3百万ドルのドル売りを行った。
- 30日、デ・ボニージャ中銀総裁は、2009年の経済成長率予測について、内外の経済情勢に鑑み0.4%～1.2%へ再度下方修正した(当初予測3.0～3.5%)旨発表した。
- 2009年上半期の輸出・輸入総額は共に引き続き減少した(前年比で輸出は6.9%減、輸入は29.0%減)。
- 2009年1月から7月の海外送金については2,302.5百万ドルとなり、前年同期比(2,550.7百万ドル)で248.2百万ドルの減少となった。
- ホンジュラス情勢の影響により、EU・中米連携協定の最終交渉会合(当初7月6-10日開催予定)の中止が決定した。

1. 主な経済指標

(1) 為替レート(中銀)

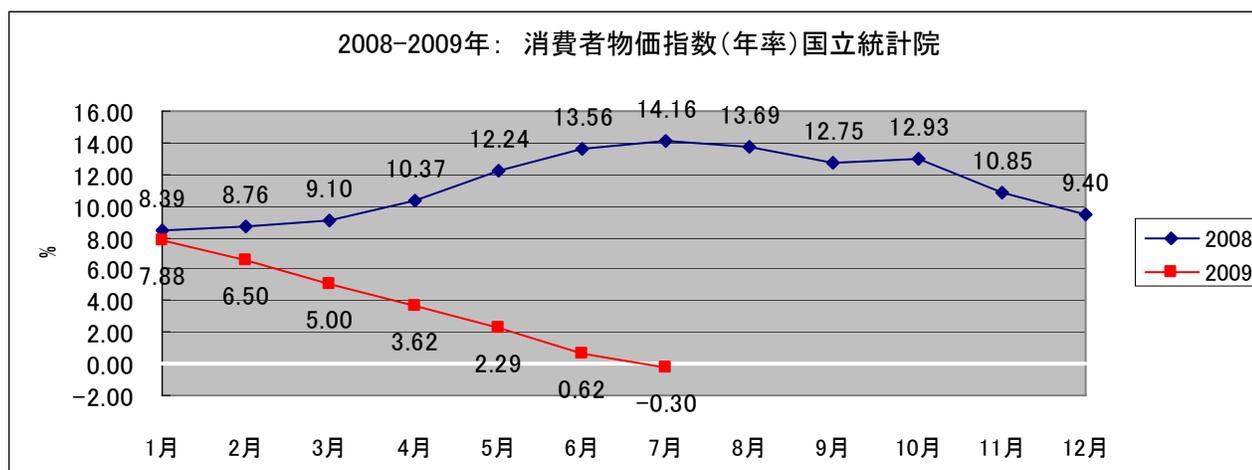
7月のケツアル対ドル相場は、ケツアル安ドル高の傾向が更に進み、23日に1ドル=8.17ケツアルを記録して以降、ケツアル最安値の更新が続いた(7月30日時点では1ドル=8.22ケツアル(公定レート))。



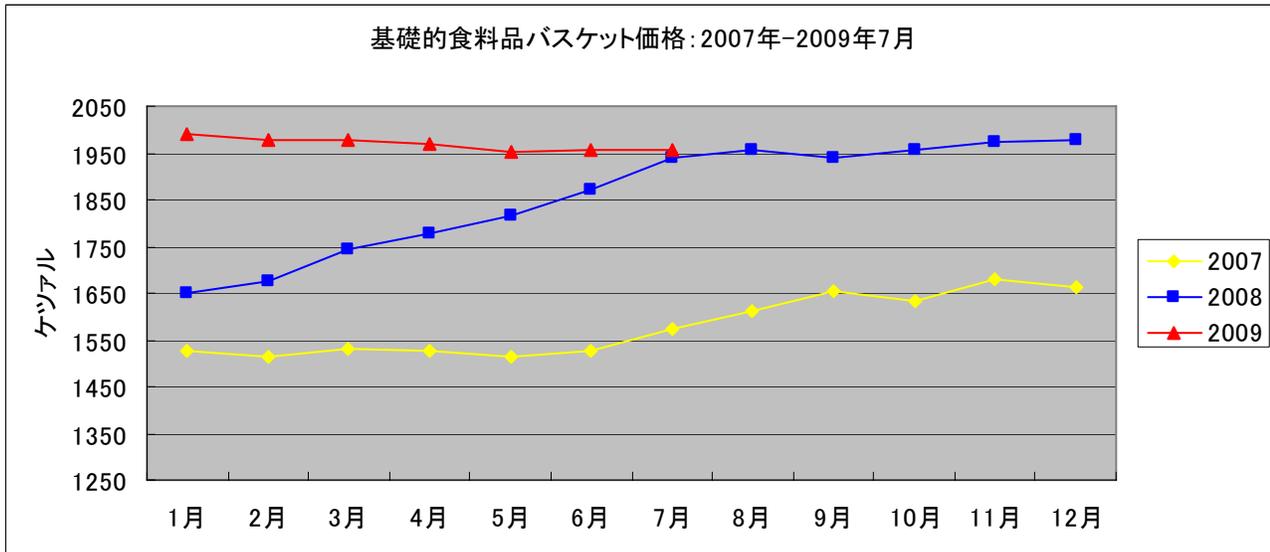


(2) 消費者物価指数(国立統計院 INE)

7月、消費者物価指数は前月比で0.33%上昇したものの、2009年累積(1月～6月)では0.77%の下落、年率(2008年7月～2009年7月)では0.30%の下落となり、過去25年間で初めてのマイナスとなった。



基礎的食料品バスケット(Canasta Básica de Alimentos: 1世帯5.38人分のカロリーとタンパク質の摂取を満たす最低限の食料26品目)の価格は、前月比でQ2.8(約0.34米ドル)上昇し、Q1,958.04/月(約238.7米ドル)となり、基礎的生活バスケット(Canasta Básica Vital: 基礎的食料品バスケットに、生活に不可欠な財と最低限のサービスを加えたもの)の価格は、前月比でQ5.1(約0.62米ドル)上昇し、Q3,573.06/月(約435.7米ドル)となった。アローヨINE(国立統計院)研究員によると、早魃や大雨など気象上の影響で玉ねぎ、アボガド、バナナ、トウモロコシについて物価上昇が見られたほか、ガソリン及びディーゼル価格の影響で交通費も上昇した。



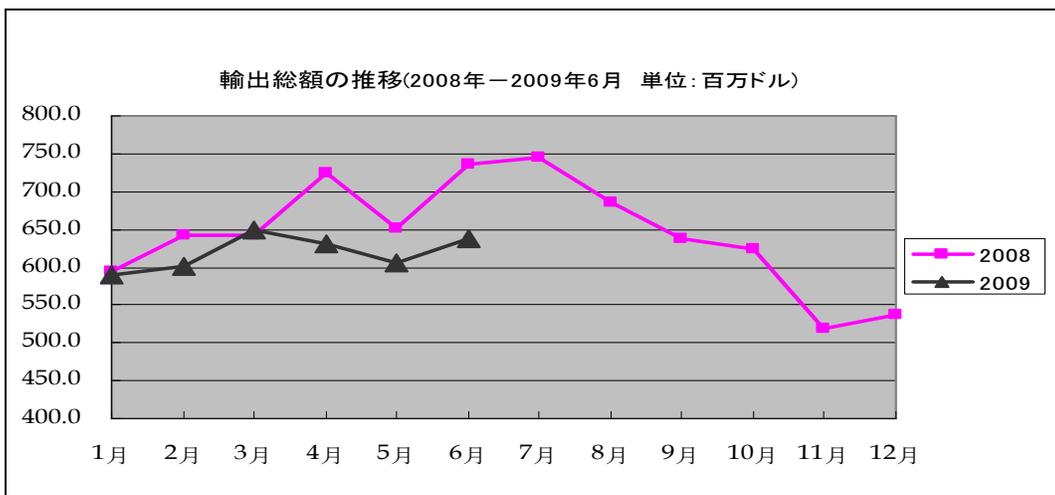
(3) 政策金利

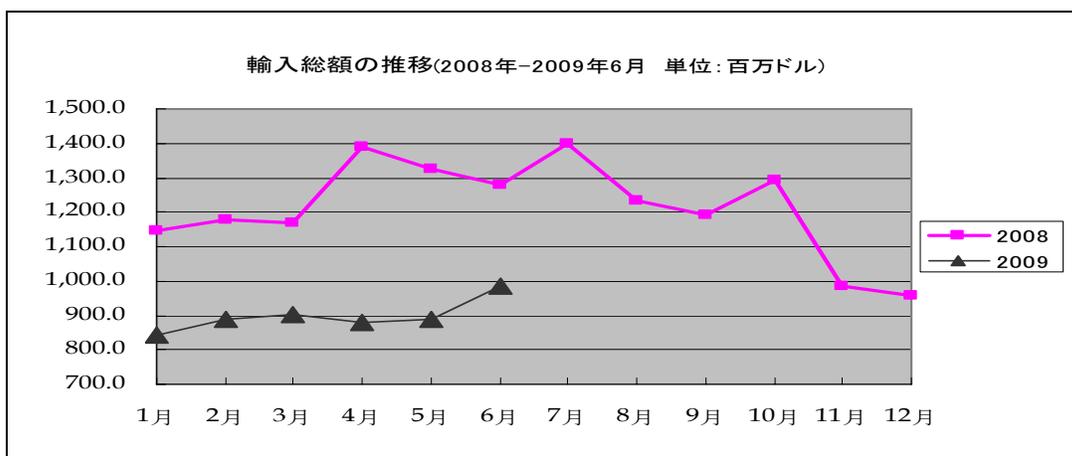
29日、国家金融審議会(JM)は、政策金利を 5.25%から 4.75%に引き下げることを決定した。2009 年に入り、政策金利はこれまでに 6 回引き下げられている(1月:7.25%→7.00%、2月7.00%→6.50%、3月6.50%→6.25%、4月6.25%→5.75%、6月5.75%→5.25%、7月5.25%→4.75%)。

国家金融審議会は、今後もインフレ圧力が更に弱まると判断されたこと、世界経済における景気の後退が 2009 年の間も継続することが予測されること等を政策金利引き下げの理由として挙げた。

(4) 貿易統計(中銀)

6月の輸出は 638 百万米ドル(前年同月比 13.4%減)、輸入は 985.9 百万米ドル(前年同月比 22.8%減)。





2009年上半期の輸出総額は3,714.6百万米ドル(前年同期比6.9%減)、輸入総額は5,386.9百万米ドル(前年同期比28.0%減)で、貿易収支は1,672.3百万米ドルの赤字(前年比52.02%減)となった。

2009年上半期の輸出については、中米諸国域内向け輸出が前年同期比11.6%減の141.9百万ドルとなった。輸出先では、最大の輸出相手国である米国向けの輸出が引き続き減少し、前年同期比9.7%減の1,481.6百万米ドルとなったほか、メキシコ向けの輸出も同様に前年同期比39.2%減少し152.5百万米ドルに留まった。他方、対日輸出は前年同期比4.8%増の79.7百万米ドルとなった。

伝統的輸出産品については、前年同期比10.1%増となった。なお、伝統的な輸出産品の輸出額は1,163.0百万米ドルに上り、全輸出額の31.3%を占めている。

(いずれも6月までの数値)

	輸出額(百万米ドル)		前年比	輸出量(百万KG)*		前年比
	2008年	2009年		2008年	2009年	
砂糖	169.6	244.2	+43.9%	632.9	807.9	+27.6%
バナナ	146.7	235.6	+60.6%	658.6	743.7	+12.9%
カルダモン	91.8	210.4	+129.2%	11.5	12.9	+12.1%
コーヒー	459.9	400.1	-13.0%	163.0	162.8	-0.1%
原油	187.7	72.5	-61.4%	2.3	2.1	-11.0%

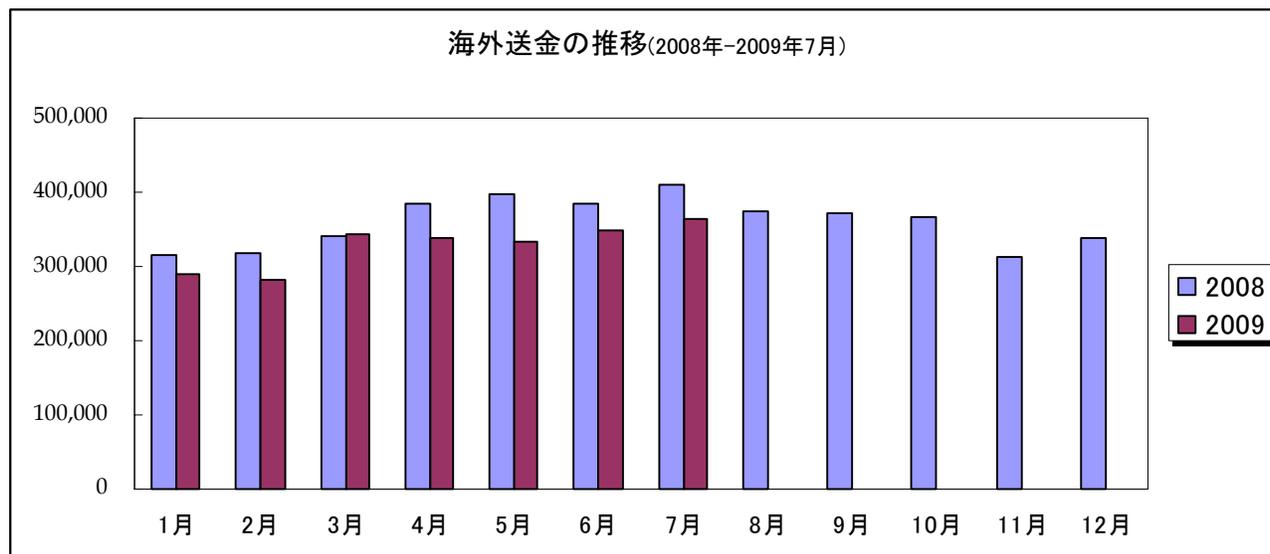
*原油の単位は百万バレル

同期間中の輸入の内訳では、原材料及び中間財の輸入が引き続き減少傾向となり、前年比32.3%減の1,851.7百万ドル、燃料及び機械油の輸入が前年比40.8%減の945.1百万ドル、消費財の輸入が前年比13.9%減の1,546.1百万ドル等に止まった。

(5) 海外送金(中銀)

7月の海外送金は365.3百万米ドルとなり2009年内では最高水準となったものの、前年同月(409.7百万ドル)比で44.4百万米ドル減(10.8%減)となった。2009年1月から7月の海外送金(総額

2,302.5 百万ドル)は、前年同期比(2,550.7 百万ドル)で 248.2 百万ドルの減少(9.5%減少)となった。



2. 国内経済トピックス

(1) 2009年経済成長予測の下方修正(7月30日)

(イ)30日、デ・ポニージャ中銀総裁は、2009年の経済成長率予測について、内外の経済情勢に鑑み、0.4%－1.2%へ再度下方修正した(当初予測3.0-3.5%、本年4月に1.0-2.0%へ下方修正)旨発表した。下方修正の理由について中銀は、「最近の国際金融機関及び各国中銀の経済予測では、各国・地域における景気後退は2009年の間継続するとの見方がされている。」「経済成長率の見直しに際しては、輸出入に関する今後の予測、外国からの送金及び観光部門による外貨収入の顕著な減少、外国直接投資の減少及びマクロ経済の安定維持等の国内経済状況に関する諸観点が考慮された。」と発表した。

(ロ)15日、CEPAL(国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会)は2008年-2009年ラテンアメリカ・カリブ経済報告書を発表した。同報告書において、2009年の当国経済については、輸出及び外国送金の減少等により、経済成長率はチリ、ニカラグアなどと同様に-1%に止まるとの見方が示された。

(2) ケツアル安ドル高の進行と中銀の為替市場介入(7月30日)

30日、中銀は、記録的な数字を更新している為替レートに対応するため、総額25.3百万ドルのドル売りを行った。ケツアルの対ドル相場は、2008年7月末時点で1ドル=7.43ケツアルであったが、海外送金や輸出の減少により国内へのドル流入が減少していること等を背景にケツアル安ドル高が著しく進行し、本年7月30日時点で1ドル=8.22ケツアル(公定レート)の水準に達した。同日、市中銀行の一部では、1ドル=8.30ケツアル～8.32ケツアルで取引された。ケツアル・レートは、今年7月23日に1ドル=8.17ケツアルとなって以降、最安値が更新され続けてきている。

(3) 消費者物価指数が25年振りにマイナスを記録

7月末時点での消費者物価指数は年率で 0.30%の下落となった。国立統計院(INE)によると、当国経済が景気後退期にあった 1982 年から 1984 年において、1984 年 8 月に-3.58%の消費者物価指数を記録して以降、25年振りに消費者物価指数がマイナスとなった。デ・ボニージャ中銀総裁は、2008 年 7 月に高インフレ率(14.1%)を記録したためその後の物価指数の下降は予測されていたとしつつ、当国がデフレに入ったか否かを判断するには、少なくとも、消費者物価指数(年率)が2ヶ月連続してマイナスとなるかを見る必要があるとの見解を示した。

(4) 世銀の対グアテマラ融資の承認(7月28日)

28日、世銀理事会は、グアテマラ政府の財政政策等改善及び世界経済危機の影響軽減を目的とし、同政府の開発政策向け融資として350百万ドル(返済期間は26.5年間(支払い猶予期間8.5年間を含む))を承認した。同融資では、マクロ経済の安定、ガバナビリティー及び透明性の改善、社会プログラム実施による脆弱な層への機会拡大、質の高い雇用創出のための成長及び生産性の向上を目指す政府に対する支援が目指される。なお、本年当初の 2009 年税収目標は 38,448.5 百万ケツアルであったが、世界経済危機等の影響により本年 6 月時点での税収目標は 30,896.3 百万ケツアル(7,552 百万ケツアル(約 932 百万ドル)分の不足)へ下方修正されている。

(5) 気象による農作物生産への影響

(イ)農牧食糧省は、干害、霜、大雨など気象上の諸々の影響で、本年4月から7月までの国内における農産物生産の被害が総額38百万ケツアル(約4.6百万ドル)に上ったとする調査結果を公表した。農牧食糧省によると、気象上の諸問題により今年4月から7月まで(7月8日時点)の農作物生産への被害は昨年同時期比で6百万ケツアル上回る総額38百万ケツアルとなり、被害を受けた農家は合計で1万6千715世帯に上った。主な原因は、長期化する干害、大雨及び霜被害である。

(ロ)アルダナ農牧食糧大臣は、霜被害の影響を受けた地域として、サンマルコス県、ウエウエテナンゴ県、等国内西部高地、干害被害が著しい地域としては、ハラパ県、レタルレウ県、チキムラ県、サカパ県等太平洋岸から国内東部地域、大雨と雹の被害を受けている地域として、ケツアルテナンゴ県、チマルテナンゴ県、キチェ県等西部地域を挙げた。農牧食糧省の報告書によると、気象条件による被害が大きい農作物は、(被害が深刻な順番に)トウモロコシ、フリホール豆、ジャガイモ、エンドウ、サヤインゲン、トマト、カリフラワー、ラディッシュなどである。

(6) 総輸出に占めるコーヒー輸出割合の低下

7月27日付シグロ21紙は、全国コーヒー協会(ANACAFE)の報告書で、当国の総輸出に占めるコーヒー輸出の割合が、1999年の22.80%から2008年に8.32%へ低下していることが示された旨報じた。同報告書によると、当国の総輸出に占めるコーヒー輸出の割合は、コーヒー市場における競争相手の出現等を背景として、2002年には6.29%まで低下した。2009年については、5月迄の統計ではコーヒー輸出は総輸出の10.39%を占めている。全国コーヒー協会(ANACAFE)の Ester Eskenazi アナリストによると、「コーヒー市場においてベトナム等が新たな生産国として登場するようになった結果、当国の多くのコーヒー農家は、価格面で太刀打ちできず天然ゴム生産など農産物の多角化を図るようになった。」、「一方、グアテマラ産コーヒー豆の酸味と香り及び味覚はコーヒー消費者から

は高い評価を受けており、過去10年間に亘りグアテマラ・コーヒーは、世界におけるコーヒー輸出量では第5位を占めている」等述べた。

3. 対外経済トピックス

(1) ホンジュラス情勢の影響

(イ)1日、EUは、ホンジュラス情勢に鑑み、中米各国の在ベルギー大使との協議も行った結果として、7月6日から10日までブリュッセルで行われる予定となっていたEU・中米連携協定交渉の最終会合を中止した旨発表した。EU側は、再開の時期について、ホンジュラスにおける状況が明らかにされるまでとし、出来るだけ早期の交渉開始を期待するとした。クリスティアーンニ当国経済省次官は、「憂慮される事態である。我々が懸念するのは、4年間に亘り停滞しているカナダとの交渉と同じ状況に陥ることである」と述べた。

(ロ)1日、クリスティアーンニ当国経済省次官は同日解除された中米3国(グアテマラ、エルサルバドル及びニカラグア)による48時間の対ホンジュラス陸上貿易閉鎖措置について、「2008年の当国の対ホンジュラス輸出はおよそ737百万ドルで、一日当たりでは約2百万ドルの計算となった。したがって、今回採られた48時間の同国に対する貿易閉鎖措置の影響は、単純計算で4百万ドルに上る」と発言した。

(2) 中米貿易大臣会合へのモラーレス経済大臣出席(7月21日)

21日、モラーレス経済大臣は、コスタリカのサンホセで開催された中米4ヶ国(グアテマラ、エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカ)の貿易大臣会合に出席した。同会合において、マヨラ中米経済統合一般条約常設事務局(SIECA)事務総長は、「世界経済の景気後退が中米地域経済に影響を及ぼしており、2009年5月迄の域内貿易は2,196百万ドルに止まり、2008年同時期(2,656百万ドル)比で460百万ドル減少した。輸出は約15%、輸入は約30%減少した」等報告した。コスタリカのルイス貿易大臣は、「ホンジュラス情勢が更に深刻化した場合に備え、域内貿易の流通について代替案を検討する必要がある。具体的には、ニカラグアとエルサルバドル間でフェリーを利用する方法が考えられる」と発言した。EUとの連携協定交渉について、出席した中米諸国大統領は、9月までには交渉を再開することが必要であり、ホンジュラスも参加することが望ましいとの点で一致した。

(了)